熊本大学埋蔵文化財調査センターにおける組織評価自己評価書

平成 30 年 9 月 28 日

40.埋蔵文化財調査センター

目次

Ⅰ　熊本大学埋蔵文化財調査センターの現況及び特徴 1
１．現況 2
２．特徴 2
３．組織の目的 2
Ⅱ　研究の領域に関する自己評価書 3
１．研究の目的と特徴 4
２．優れた点及び改善を要する点 4
３．観点ごとの分析及び判定 4
４．質の向上度の分析及び判定 7
Ⅲ　社会貢献の領域に関する自己評価書 8
１．社会貢献の目的と特徴 9
２．優れた点及び改善を要する点の抽出 9
３．観点ごとの分析及び判定 10
４．質の向上度の分析及び判定 19
Ⅳ　国際化の領域に関する自己評価書 20
１．国際化の目的と特徴 21
２．優れた点及び改善を要する点の抽出 21
３．観点ごとの分析及び判定 22
４．質の向上度の分析及び判定 24
Ⅴ　教育研究支援に関する自己評価書 25
１．教育研究支援（その他の領域）の目的と特徴 26
２．優れた点及び改善を要する点の抽出 26
３．観点ごとの分析及び判定 26
４．質の向上度の分析及び判定 28
Ⅵ　男女共同参画に関する自己評価書 29
１．男女共同参画（その他の領域）の目的と特徴 30
２．優れた点及び改善を要する点の抽出 30
３．観点ごとの分析及び判定 30
４．質の向上度の分析及び判定 30
Ⅶ　管理運営に関する自己評価書 32
１．管理運営の目的と特徴 33
２．優れた点及び改善を要する点の抽出 33
３．観点ごとの分析及び判定 34
４．質の向上度の分析及び判定 49

Ⅰ　熊本大学埋蔵文化財調査センターの現況及び特徴

１．現況

（１）学部等名：熊本大学埋蔵文化財調査センター

（２）学生数及び教員数（平成 30 年５月１日現在）

兼務教員数（センター長）：１人、専任教員数（現員数）：２人

※平成 29 年３月 31 日までは専任教員３人（准教授１人、助教２人。准教授１人が平成 29 年 3 月 31 日に退職）。

２．特徴

熊本大学の再開発に伴い、構内遺跡の調査に関する業務を行う組織である。

業務内容は次の４項目である(「熊本大学埋蔵文化財調査センター規則」による)。

① 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること。

② 出土した埋蔵文化財の整理・研究、保管及び保存に関すること。

③ 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。

④ その他センターの目的を達成するために必要な事項。

※黒髪南地区に独立した２階建ての建物があり、事務室・調査員室のほか、展示室・作業室・書庫を備える。また、黒髪北地区には、遺物や発掘機材等を保管するための２階建ての収蔵庫を備えている。

３．組織の目的

熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用し、もって本学の教育・研究に寄与することを目的とする（「熊本大学埋蔵文化財調査センター規則」による)。

熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下、「本センター」と略記する。）は、前身の埋蔵文化財調査室をもとに平成23年10月１日に設立された調査機関(学内共同教育研究施設)である。今回の自己評価は平成 28 年４月１日から平成 29 年３月 31 日までの活動について記載する。

Ⅱ　研究の領域に関する自己評価書

１．研究の目的と特徴

本センター業務にかかわる次の研究を推進することを基本方針とする。

① 上質な埋蔵文化財調査の実施にかんする研究。
② 効果的な埋蔵文化財の整理・保管、報告書の作成にかんする研究。
③ 効果的な展示・普及活動に資する研究。
④ ①～③に資する考古学研究。

【想定する関係者とその期待】

・想定する関係者

熊本大学の構成員、地方公共団体の文化財部門、大学の埋蔵文化財関係機関、大学の考古学研究室、国内の博物館・歴史民俗資料館、文化庁記念物課、歴史学研究者、歴史に関心をもつ一般市民。

・その期待

① 発掘調査成果の公表により、大学の歴史を理解する。
② 発掘調査報告書により構内遺跡の成果を理解し、地域史の復元を進める。
③ 埋蔵文化財調査センターの展示等により、構内遺跡の成果を理解し、地域史の理解を深める。
④ 発掘調査成果の公表により、国内の埋蔵文化財行政の整備を進める。
⑤ 歴史学研究、考古学研究に寄与する。

２．優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・ 発掘調査報告書と年報が計画的に刊行されている点。
・ 各教員の研究活動が期待される水準を上回っている点。

【改善を要する点】

本センターの事業量は年度ごとに変動するため，研究活動の計画的な継続がしばしば困難となる。とくに事業量が多い年度は発掘調査を優先せざるを得ないため，教員個人の研究活動を圧迫し、研究業績に影響する傾向がある点。

３．観点ごとの分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　研究活動の状況

観点：研究活動の状況

（観点に係る状況）

平成 28 年４月から平成 30 年３月までの研究活動を数値で示すと次のとおりである。

（資料番号 B-1～3）

論文・調査報告数：８
学会報告・講演数：９
科学研究費採択数：３

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

本センターの専任教員は２人であり，その実績を１人あたりで平均すると１年間に論文・調査報告２本，学会報告・講演 2.25 回である（平成 29 年３月 31 日に退職した准教授の業績を除外して算出）。また，専任教員２人とも研究代表者として科学研究費を獲得している。平成 28 年度末に准教授が退職し、専任教員が助教２人の体制で発掘調査に忙殺されているにもかかわらず、研究を着実に進めている。

（資料番号 B-1）研究活動状況一覧

	平成 28 年度	平成 29 年度	合 計
論文・調査報告	4	4	8
学会報告・講演	6	3	9
科学研究費採択	1	2	3

（出典：各教員の提出書類）

（資料番号 B-2）研究業績一覧

大坪志子助教

〈平成 28 年度〉

論文

1. 大坪志子「弥生時代における九州のヒスイ製勾玉の系譜」『日・韓の装身具』204-219 頁，2016 年 8 月

調査報告

1. 大坪志子「東釧路遺跡・北斗遺跡出土の石製装身具」『釧路市立博物館館報』419，6-7 頁，2017 年 3 月
2. 大坪志子・松田光太郎・吉留広『熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅻ』熊本大学埋蔵文化財調査センター，2017 年 3 月
3. 大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留広・松田光太郎『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 22』2017 年 3 月

学会報告

1. 大坪志子「長野市宮崎遺跡出土の縄文時代玉製品の石材産地」第 33 回日本文化財科学会，2016 年 6 月 4 日
2. 大坪志子「弥生時代における九州のヒスイ製勾玉の系譜」第 12 回九州考古学会・嶺南考古学会合同学会，2016 年 8 月 19 日
3. 大坪志子“A Report on the Changes of Stone Ornaments and Materials in the Jomon Period”The Eighth World Archaeological Congress，2016 年 8 月 29 日

受賞

第 10 回九州考古学会賞『縄文玉文化の研究―九州ブランドから縄文文化の多様性を探る―』（雄山閣，2015 年） 2016 年 11 月 26 日

〈平成 29 年度〉

調査報告

1. 大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留広『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 23』2018 年 3 月

学会報告・講演

1. 大坪志子「石製装身具の現在と研究法」宮崎考古学会総会，2017 年 6 月 4 日
2. 大坪志子「蛍光 X 線分析（XRF）と主成分分析（PCA）の石材研究への利用」考古学研究会岡山 2017 年 11 月例会，2017 年 11 月 11 日

山野ケン陽次郎助教

〈平成 28 年度〉

学会報告

1. 山野ケン陽次郎「熊本地震文化財被災報告２」東アジア先史学談話会，2016 年 7 月 16 日
2. 山野ケン陽次郎「兼久式土器に共伴する貝製品の変遷と年代」第８回奄美考古学会，2016 年 8 月 20 日
3. 山野ケン陽次郎「琉球列島における縄文時代後晩期の貝製品と製作技術」第７回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会，2016 年 11 月 26 日

〈平成 29 年度〉

論文

1. 山野ケン陽次郎「琉球列島における縄文時代後晩期の貝製品と製作技術」『鹿児島考古』47，25-34 頁，2017 年 7 月

調査報告

1. 山野ケン陽次郎「平成 28 年度熊本地震に係る煉瓦等落下物に関する調査報告」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2016 年度』49-57 頁，2018 年 3 月
2. 山野ケン陽次郎・柴田亮編『熊本大学構内遺跡発掘調査報告ⅩⅢ』熊本大学埋蔵文化財調査センター，2018 年 3 月

講演

1. 山野ケン陽次郎「熊本大学黒髪南キャンパスの発掘調査―遺跡は何を語るのか―」平成 29 年度熊本県高等学校教育研究会地学部会総会，2017 年 5 月 26 日

（出典：各教員の提出書類）

（資料番号 B-3）科学研究費の採択状況

大坪志子助教

〈平成 29 年度〉

「九州縄文時代後晩期における玉と縄文文化の実証的研究」基盤研究（B）

研究期間：2017 年 4 月-2020 年 3 月

山野ケン陽次郎助教

〈平成 28 年度〉

「先史時代における太平洋西部島嶼地域の貝類利用の復元研究」若手研究（B）

研究期間：2015 年 4 月- 2017 年 3 月

〈平成 29 年度〉

「先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究」若手研究（B）

研究期間：2017 年 4 月- 2020 年 3 月

「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」基盤研究（B）

研究期間：2017 年 4 月-2019 年 3 月　研究代表者：木下尚子　研究分担者

観点：大学の共同利用・共同研究拠点に認定された付置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の実施状況。

（観点に係る状況）

該当なし。

（水準）

（判断理由）

（２）分析項目Ⅱ　研究成果の状況

観点：研究の成果（大学の共同利用・共同研究拠点に認定された付置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。

（観点に係る状況）

発掘調査報告書と年報が毎年度計画的に刊行されており（資料番号 B-4）、教員個人の研究も着実に成果を収めている。

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

・発掘調査報告書と年報が年度ごとに刊行されている。

・研究成果に対する評価のきわめて高い研究がある。

（資料番号 B-4）埋蔵文化財調査センター報告書・年報

発掘調査報告書

1. 熊本大学埋蔵文化財調査センター『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』12（2017 年）
2. 熊本大学埋蔵文化財調査センター『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』13（2018 年）

年報

1. 熊本大学埋蔵文化財調査センター『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』22　2015 年度（2017 年）
2. 熊本大学埋蔵文化財調査センター『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』23　2016 年度（2018 年）

（出典：熊本大学埋蔵文化財調査センター各報告書・年報）

４．質の向上度の分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　研究活動の状況

（判定結果）

高い質を維持している

（判断理由）

平成 28 年度末に准教授が退職し、専任教員が助教２人となっても、論文・調査報告数、学会報告・講演数、科学研究費の採択件数、同補助金の受入額で高い水準を維持している。

（資料番号 B-5）科学研究費受入額

平成 28 年度	平成 29 年度
1,370 千円	4,160 千円

（出典：各教員の提出書類）

（２）分析項目Ⅱ　研究成果の状況

（判定結果）

大きく改善向上している

（判断理由）

大坪志子助教の著書『縄文玉文化の研究―九州ブランドから縄文文化の多様性を探る―』（雄山閣，2015 年）は、複数の全国学会誌で書評が掲載され、高い評価を受けており、また第 10 回九州考古学会賞を受賞している。新たな科学的分析手法によって縄文文化の通説的理解を覆した重要な研究成果である。

山野ケン陽次郎助教も南島考古学の分野で斬新な成果を収めており，本学構内遺跡についても近代建築にかかわる新たな事実を解明している。

Ⅲ　社会貢献の領域に関する自己評価書

１．社会貢献の目的と特徴

（１）目的

本センターが調査した埋蔵文化財は国民共有の財産である。そのため、発掘調査の成果を社会にひろく還元することを基本方針とし、併せて成熟した社会の発展のために文化財保護思想の普及を目指す。

（２）特徴

① 義務教育・高等学校教育現場や社会教育現場において、埋蔵文化財の調査・研究成果の普及・啓発が期待されている。

② 地域おこしの素材として、地域社会と深いかかわりのある埋蔵文化財の調査成果の還元が期待されている。

③ 地域社会に開かれた大学として、構内遺跡の調査成果の地域住民への還元が期待されている。

【想定する関係者とその期待】

- 小学校・中学校・高等学校の学校現場から、考古学の調査・研究成果を用いた授業の要請が想定される。
- 博物館、教育委員会、社会人サークルや社会教育関係団体から、考古学の調査・研究成果を用いた講座・レクチャーの要請、考古学の調査成果に関する問い合わせが想定される。
- 本学の卒業生から構内遺跡に関して知りたいという要請が想定される。
- 地域住民から大学周辺の歴史を知りたい、構内遺跡の調査成果を知りたいという要請が想定される。

２．優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

- 専門分野の異なる教員が在籍し、外部からの要望に適切に対応することが可能である。
- 大学構内遺跡に関する常設展示を常時一般に向けて開放している。また各年度、速報展示や特別展示を一定期間開催している。
- 大学構内で開催する卒業生を対象としたホームカミングデー（毎年度 11 月上旬に実施）やオープンキャンパス（平成 29 年度から８月上旬に実施）では、現地の見学や展示遺物を通して大学周辺の歴史を理解することができる。
- 平成 28 年度に工学部技術部稲尾氏の協力のもと熊本大学構内の遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」の開発を完了し、平成 29 年度から学外見学者や授業協力向けに広報し、活用している。これによって、見学者の構内遺跡巡りが容易になった。

【改善を要する点】

- 熊本大学構内の遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」の開発・活用によって、不定期である学校現場や社会人からの要請にも常時対応できるようになったが、更に本センターの情報を発信・普及する方法を追求する必要がある。

３．観点ごとの分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点：社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点に係る状況）

組織の設置目的として「出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用」することと明記し、『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載している。これは本学の中期目標「国や自治体との連携の推進」と同様の目的を志向したものである。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

埋蔵文化財の発掘調査は、国（文化庁）、熊本県、熊本市との行政的連携によって初めて実現され、その基本方針に沿って文化財保護活動（発掘調査）を行なっている。活用においては熊本市、熊本県と日常的に密接な情報交換を継続している。また、熊本県環境影響評価審査会の委員を助教が務めており、「国や自治体との連携の推進」を実現している。

「センターは、熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする」（「熊本大学埋蔵文化財調査センター規則」）という目的を達成するために指針を定め、『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載し、公表・周知しているため。

（資料番号 C-1）熊本大学埋蔵文化財調査センター規則

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H29.4.1～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という.）に関し必要な事項を定める.

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という.）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，研究．保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする.

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務を行う.

⑴　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること.

⑵　出土した埋蔵文化財の整理・研究，保管及び保存に関すること.

⑶　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること.

⑷　その他センターの目的を達成するために必要な事項.

（出典：熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 23）

観点：計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

平成 28 年度は准教授１名・助教２名、平成 29 年度は助教２名の教員を配置し、展示室や遺跡サインなど用いて、大学構内遺跡の埋蔵文化財を活用した社会貢献活動を計画に基づき実施している。学校現場など教育関係機関からの問い合わせに対応するとともに、ホームカミングデーなど大学の対外活動にも積極的に参加している。また、本センターでの活動に基づき教員が各地の博物館活動や遺跡調査・保存活動に協力している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

専門分野の異なる教員が在籍し、それぞれの専門や調査・研究実績に応じて対応し、相応の効果をあげている。

（資料番号 C-2）　社会貢献活動実施状況一覧

	実施日時	内容	担当	種別	参加者	会場	実施主体
平成28年度	平成28年11月１日～平成29年４月28日	速報展示2016『ＲＥＮＧＡ－遺跡から見えた近代－』	准教授１名 助教１名	展示	268名（展示期間中は184名）	熊本大学 埋蔵文化財調査センター	熊本大学埋蔵文化財調査センター
	平成28年11月12日	熊本大学ホームカミングデー2016	助教１名	体験事業	19名	熊本大学黒髪キャンパス 埋蔵文化財調査センター	熊本大学運営基盤管理部総務課
	平成28年６月27日～７月１日	地下と地上の文化財散歩	助教２名	体験事業	50名	熊本大学黒髪南キャンパス ・本荘北キャンパス	熊本大学埋蔵文化財調査センター
平成29年度	平成29年12月１日～平成30年４月27日	特別展示2017『生活道具は変わらない？』	助教２名	展示	209名（展示期間中は128名）	熊本大学 埋蔵文化財調査センター	熊本大学埋蔵文化財調査センター
	平成29年8月5日	熊本大学オープンキャンパス2017『熊大遺跡巡り』	助教２名	体験事業 ・展示	21名	熊本大学黒髪キャンパス 埋蔵文化財調査センター	熊本大学学生支援部入試課
	平成29年11月5日	熊本大学ホームカミングデー2017	助教１名	体験事業 ・展示	9名	熊本大学 埋蔵文化財調査センター	熊本大学運営基盤管理部総務課

（出典：教員による提出書類『熊本大学オープンキャンパス 2017 を開催して他）

（資料番号 C-3）　行政支援・指導一覧

大坪志子助教

〈平成 28 年度〉

・2012 年 9 月 28 日～2018 年 7 月 31 日
　熊本県環境影響評価審査会委員・環境配慮専門委員
・2014 年 11 月 29 日～継続中
　九州考古学会運営委員会
・2016 年 7 月 1 日～継続中　長崎県埋蔵文化財センター
　長崎県原の辻遺跡調査指導委員
・2016 年 10 月 18 日～19 日　熊本県教育員会
　熊本県幅・津留遺跡出土石製装身具に関する専門調査
・2016 年 10 月 27 日～28 日　熊本県教育員会
　熊本県幅・津留遺跡出土石製装身具に関する専門調査
・2016 年 3 月 31 日刊行「岩鼻岩陰遺跡出土石製装身具に関する調査・所見執筆
・2017 年 1 月 29 日　春日市教育委員会
　福岡県上平田・天田遺跡 5 次調査出土の石製装身具に関する調査・指導

〈平成 29 年度〉
・2018 年２月 25 日～26 日　熊本県教育員会（於：愛媛大学）
　熊本県幅・津留遺跡出土石製装身具に関する専門調査
・2018 年３月 31 日刊行
　大分県法垣遺跡出土石製装身具に関する調査・所見執筆

山野ケン陽次郎助教
〈平成 29 年度〉
・2018 年３月 19 日～21 日　天城町教育委員会
　天城町下原洞穴遺跡出土貝製品に関する指導

観点：活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

（観点に係る状況）
　平成 28 年度・29 年度ともホームカミングデーの企画を行ない、構内遺跡の案内・解説を行ない、平成 29 年度はオープンキャンパスで構内遺跡の案内・解説を行なった。
（水準）期待される水準にある。
（判断理由）
　ホームカミングデー、オープンキャンパスの参加者から、非常に有意義であったとの旨の感想が寄せられている。また、熊本大学構内の遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」も好評である（次頁資料）。

（資料番号 C-4）

熊本大学オープンキャンパス 2017

－クマダイ遺跡巡りを開催して－

１．開催日時

2017 年 8 月 5 日（土）
開館時間　9：00～16：30（展示室の開放）
イベント説明会　午前の部 10：00～　午後の部 15：00～

２．参加者

・来館者　21 名
・ステッカー配布人数　４名

３．広報

・熊大通信への情報掲載
・埋文センターホームページへの掲載
・ちらし配布×2000 枚（文学部・理学部）
・A4 ポスター設置×６枚（文学部歴史学科）
・立て看板設置×５カ所（黒髪南地区）
・ラジオ出演
・新聞掲載（熊本日日新聞・朝日新聞）

４．反省点

学部や研究室の見学を主たる目的とした行事にもかかわらず、展示室へ 20 名を超える学生と父兄が来館した。来館した方々は大学構内遺跡出土遺物と大学周辺の歴史について大変興味深く話を聞いており、質問も複数あった。遺跡散策アプリを実践した人は４人と少なかったが、参加した方々は自身のスマートフォンを使って遺跡巡りをされており、概ね好評であった。用意していた「ヤキンちゃん」と「ジョウもん」のシールは喜んで持ち帰って頂けた。文学部歴史学科の考古学研究室には 80 名程の学生が見学に来たという。文学部の紹介は午後開始であり、アプリの説明会と時間帯も被っているため、とくに歴史に興味のある学生たちは文学部から距離がある当センターまで足が伸びなかったようである。

アプリの説明については教員が個々人に教えて普及させるには限界があり、センター来館者に伝えるだけでは充分な広報とはいえない。イベントにかかわらず常にアプリの情報を入手することができるよう、遺跡看板などに案内シールを貼る等の改善が必要かと思われた。

（出典：『熊本大学オープンキャンパス 2017 を開催して』）

観点：改善のための取組が行われているか。

（観点に係る状況）

参加者の感想と実施報告に基づいて毎月１回定例開催しているセンター会議で分析のうえ周知し、次年度に改善を図っている。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

実施報告を速やかに作成・報告し、定例センターの会議において内容を分析して改善を図っているため（次頁資料）。

（資料番号 C-5）

埋蔵文化財調査センター速報展示 2016
『RENGA－遺跡から見えた近代－』の実施報告

1．概要

開催期間:2016 年 11 月 1 日～2017 年 4 月 28 日（常設展示への切り替えは 5 月 16 日以降）

休館日：土・日・祝日・12 月 28 日～1 月 3 日

会場：埋蔵文化財調査センター

主催・協力：埋蔵文化財調査センター・五高記念館

展示説明会：2016 年 11 月 10 日（木）AM10：00～

2016 年 12 月 6 日（火）AM10：00～

2．広報活動

・10 月 30 日～4 月 28 日まで正門前への立看板設置

・10 月中にチラシの配布（熊本大学文学部ほか）

・熊本大学と当センターのホームページに開催通知

・熊大通信に記事掲載（vol.63）

・学内メールの送付（開催と 2 度の説明会について）

・10 月 28 日にプレスリリース

・新聞への記事掲載（熊本日日新聞、西日本新聞、毎日新聞、くまにちあれんじ）

・Facebook による情報発信

3．来館人数

来館人数合計：268 名（ただし、開催期間中は 184 名）

月	開館日数	授業協力・イベント参加人数(a)	通常来館人数(b)	来館人数合計(a+b)	授業協力・イベント	新聞掲載
11月	20	26	23	49	11月10日に展示説明会（7名） ホームカミングデー（19名）	11月3日熊本日日新聞 11月8日西日本新聞
12月	18	10	16	26	12月6日に展示説明会（10名）	12月3日くまにちあれんじ 12月16日毎日新聞
1月	19	0	7	7	なし	
2月	20	0	19	19	なし	
3月	22	0	13	13	なし	
4月	20	46	24	70	4月12日（12名）・19日（12名）・26日（12名）にグローバル教育カレッジの授業 4月27日に共通教育の授業（10名）	
5月	9	82	2	84	5月10日にグローバル教育カレッジの授業（11名） 5月16日に共通教育の授業（71名）	
		164	104	268		

4．反省点・課題など

① 情報発信について

管理運営費の削減により、ちらしやポスターが印刷できないなど、展示開催の十分な情報発信が困難であった。そのため上記広報活動を実施したが、このうち新聞を見て会場に来た方が非常に少ないのが気になった。一方、最も大きな告知効果を果たしたのは立て看板である。赤門前に１つ設置していたが、工学部側にももう一つ設置するとなお良いと思われた。また、１～３月にかけては来場者数が他の月に比べて少なく、イベントの開催や新たな告知（学内メールの配信）を行うなど、長い展示期間中にエポックが必要であったと思われる。

② 来館者について

今年度は、授業協力などでたくさんの学生が来館した。逆に言えば、授業協力をしていなければ、140 人ほどしか来館しなかったことになる。リピータの方はいらっしゃるものの、特に今年は赤煉瓦ということで、古い時代のことを好む方々からは敬遠された感があった。当センターのロケーションの問題も大きいと思われるが、来館者増加のためにはセンターまでの案内看板の増加などが必要なのではないかと思う。

③ 展示内容について

今年は赤煉瓦をテーマとしており、地震のことも考慮して、クールな印象のポスターや展示内容を目標にした。来館者の反応はおおむね良かったと思われる。とくに人気だったのは「熊本監獄製造印」と「熊本高等工業学校本館」である。また、五高記念館から資料を借用するなど連携をとり、遺物だけでなく大学の資料を活かせたのは画期的であった。ただ、アンケートでは煉瓦の歴史について分かるような年表や同時期の代表的な建物の写真などがあったらよかったという意見があり、展示スペースや展示品の問題があるものの導入部分について若干の改善が必要だったと思われる。

④ 展示室の改良について

今年度は展示台の高さを 30 ㎝程から 60 ㎝まで高くした。遺物が近くなり、リピーターからは見やすいとの感想を多く頂いた。また、展示室のライトが一部つかなくなっており、この点については今年度の予算で改善する必要がある。あるいは、LED スポットライトに変更してもよいかもしれない。

⑤ 展示期間について

本年度は展示期間を昨年より一か月間伸ばした。速報展示の期間としては半年間と長すぎるようにも思えるが、４月の新入生の授業活用において頻繁に用いてもらえたため、結果としては良かったと思われる。しかし一方で、現在の常設展示が土器ばかりであるため、話がしづらいなどの問題点が浮き彫りとなった。資料の不足も含めて、常設展示についても４年目になるので改善する必要があると思われる。５月時期に連続して展示の見学があると、展示期間を過ぎても展示変更ができないという問題点もあった。

（文責：山野）

（出典：『埋蔵文化財調査センター速報展 2016 実施報告』）

（２）分析項目Ⅱ　大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点：大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点に係る状況）

本センターの設置目的として「出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする」と明記し、『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載している。また、平成 29 年度からは熊本大学博物館機構（仮称）の設置準備委員会に参画している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

熊本大学埋蔵文化財調査センター規則において、目的を達成するための適切な方針を示している。また熊本大学埋蔵文化財調査センター規則は『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載し、公表・周知しているため（資料番号 C-1）。

観点：計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

平成 28 年度・29 年度ともに速報展示・特別展示を行ない、展示説明会も開催した。平成 28 年度には「地下と地上の文化財散歩」を開催した（資料番号 C-2）。また、平成 29 年度からは熊本大学博物館機構（仮称）の設置準備委員会に参画している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

毎年度計画に基づいた速報展示・特別展示を行ない、展示説明会も行なっており、センターの企画は本学広報誌、地元メディアに取り上げられているため。

（資料番号 C-6）　地域貢献活動に関する広報

【大学広報誌で取り上げられたもの】

・2016 年春期　「熊本大学埋蔵文化財調査センター「地下と地上の文化財散歩」」『熊大通信』vol.60　p20　熊本大学
・2016 年５月　「43　熊本県」『日本考古学年報』67（2014 年度版）　p342　日本考古学協会
・2016 年夏期　「恒例の「地下と地上の文化財散歩」を開催しました」『熊大通信』vol.61　p19　熊本大学
・2016 年秋期　「「埋蔵文化財調査センター速報展示 2016」を開催します」『熊大通信』vol.62　p19　熊本大学
・2017 年夏期　「携帯端末用アプリ「クマダイ遺跡巡り」を使って遺跡を探索しました」『熊大通信』vol.65　p19　熊本大学
・2017 年冬期　「埋蔵文化財調査センター特別展示を開催中です」『熊大通信』vol.67　p20　熊本大学

【地元メディアに取り上げられたもの】

〈平成 28 年度〉

・「熊本大の地下と地上の文化財散歩」（読売新聞：平成 28 年６月 24 日）
・「近代建造物　実態探る」（熊本日日新聞：平成 28 年 11 月３日、５面）
・「赤煉瓦基礎確認歴史的価値高く」（西日本新聞：平成 28 年 11 月８日、22 面）
・「熊本大学埋蔵文化財調査センター速報展　RENGA－遺跡から見えた近代」（毎日新聞：平

成 28 年 12 月 16 日）
・「熊本大学埋蔵文化財調査センター速報展示 2016　RENGA－遺跡から見えた近代－」（雑誌　『くまにちあれんじ』イベントナビ）
・「デイリーニュース」ケーブルテレビ　J：COM 熊本　平成 28 年 11 月 24 日　午前 11 時
・「明治大正期の赤煉瓦遺構など展示…熊本大学」（くまもと経済フォトニュース：平成 29 年２月１日）
〈平成 29 年度〉
・「熊大遺跡　アプリで発掘」（朝日新聞平成 29 年６月５日）
・「熊大の遺跡　アプリと巡る」（熊本日日新聞平成 29 年５月 19 日、12 面）
・「熊本よかもん見つけ隊」（RKK ラジオ、平成 29 年７月 10 日 15：30 分頃）
・「装身具から日韓を読む」（朝日新聞朝刊平成 29 年３月７日 30 面）
・「九州考古学会賞を受賞　縄文社会とその精神世界」（西日本新聞平成 29 年３月 13 日朝刊７面）

（出典：各広報誌、新聞、メディア）

観点：活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

（観点に係る状況）
　速報展示・特別展示、展示説明会の参加者から好意的な感想が多く寄せられており、地元メディアも好意的に取り上げている。
（水準）期待される水準にある。
（判断理由）
　地元メディアが好意的に取上げ､参加者から好意的な感想が多く寄せられているため。

観点：改善のための取組が行われているか。

（観点に係る状況）
　すべての企画終了後、実施報告を作成して反省点を抽出しており、毎月１回定例開催しているセンター会議においても検討し、今後の改善を図っている。
（水準）期待される水準にある。
（判断理由）
　すべての企画終了後、実施報告と反省点の抽出を行ない、センター会議においても検討して今後の改善を図っているため（資料番号 C-5）。

４．　質の向上度の分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

（判定結果）
大きく改善向上している

（判断理由）
平成 28 年度・29 年度ともホームカミングデーの企画を行ない、平成 29 年度はオープンキャンパスで構内遺跡の案内・解説を行ない、構内遺跡の発掘調査の成果を積極的に社会に提供している。また、遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」の開発・活用によって、常時、楽しく構内遺跡を散策して解説を聞けるようになっており、質的向上が見られる。

（２）分析項目Ⅱ　大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

（判定結果）
大きく改善向上している

（判断理由）
平成 28 年度・29 年度ともに速報展示・特別展示を行ない、平成 28 年度には「地下と地上の文化財散歩」を開催し、地域の方々に構内遺跡の内容と発掘調査の最新成果を提供した。また、遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」の開発・活用によって、常時、楽しく構内遺跡を散策して解説を聞けるようになっており、質的向上が見られる。

Ⅳ　国際化の領域に関する自己評価書

１．　国際化の目的と特徴

（１）目的

国際化が進む現在、英語圏やアジア諸国を意識した活動は当然のこととなっている。本センターは、調査成果の報告において、その要旨を英語・ハングルで表記し、一般向けの説明では英語・中国語・ハングルを併記することを基本方針としている。

（２）特徴

出土遺物や調査記録に基づく熊本大学周辺の歴史や構内遺跡の調査成果について、多言語化を通じて、留学生や本学を訪問した外国人研究者に情報提供し、熊本大学の埋蔵文化財についての知識と文化財保護の取り組みを伝えることを特色としている。

【想定する関係者とその期待】

・外国人留学生から、熊本大学周辺の歴史を知りたいという要望がある。

・外国人研究者から、熊本大学構内遺跡の調査について知りたいという要望がある。

２．　優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

- 多言語化計画に基づき、調査成果の要旨を多言語化して公表している。『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』の要旨は英語と韓国語を掲載しており、平成 29 年度刊行の『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』13 の要旨は英語と中国語を掲載している。
- 速報展示・特別展示ともに展示キャプションに英語表記を加えた。
- 平成 29 年度にはグローバル教育カレッジの授業協力を行ない、留学生に英語によって展示の解説をした。また、本荘地区遺跡パンフレットの韓国語版を作成した。

【改善を要する点】

- 本センター常設展示の多言語化。

３．観点ごとの分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点：国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点に係る状況）

調査成果の多言語化は次の３つで行う計画である。

① 『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』と『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』の要旨

② 速報展示・特別展示のキャプションの多言語化

③ 遺跡パンフレットの多言語化

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

上記①～③について平成 28･29 年度に実施している。調査成果を多言語で発信することは国際化の目的に合致しており、その計画の一部は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』に公表している。

（資料番号 D-1）　多言語化に係る資料刊行と展示

	刊行物ほか	内容	発行年月日・期間
平成 28 年度	『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』22	Summary　英語版・韓国語版	平成 29 年 3 月 17 日
	『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』12	Summary　英語版	平成 29 年 3 月 31 日
	速報展示 2016	展示遺物キャプション　英語版	平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 4 月 28 日
平成 29 年度	『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』23	Summary　英語版・韓国語版	平成 30 年 3 月 30 日
	『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』13	Summary　英語版・中国語版	平成 30 年 3 月 31 日
	速報展示 2017	展示遺物キャプション　英語版	平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 4 月 27 日
	本荘地区遺跡パンフレット『地下の文化財』	韓国語版	平成 30 年３月

（出典：各年報、報告書、パンフレット）

観点：計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』22・23 の要旨 13 の要旨を英語と韓国語を掲載しており、報告書も『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』13 の要旨を英語と中国語を掲載している。

速報展示・特別展示ともに展示キャプションに英語表記を加えた。

本荘地区遺跡パンフレットの韓国語版を作成した。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

計画に基づき『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』の要旨も多言語化を進め、センタ

一展示室の常設展示キャプションに英語表記を加え，本荘地区遺跡パンフレットの韓国語版を作成したため（次頁資料）。

（資料番号 D-2）　パンフレット

（出典：『熊本大学地下の文化財：本荘地区（本荘遺跡）』）

観点：活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

（観点に係る状況）

留学生がセンター展示室を利用する際には、遺跡パンフレットの英語版・中国語版・韓国語版を活用している。平成 29 年度はグローバル教育カレッジの授業協力を２回行ない、センター展示室の見学・解説、遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」を活用がとても好評であった。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

グローバル教育カレッジの授業協力は，留学生にとても好評であり、今後の継続を要請されているため（次頁資料）。

観点：改善のための取り組みが行われているか。

（観点に係る状況）

多言語化を計画的に推進するとともに、翻訳に際しては専門家の指導を受けながら実施している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

計画的であり、かつ専門家の指導を受けながら多言語化を推進しているため。

４．　質の向上度の分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

（判定結果）

大きく改善向上している

（判断理由）

『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』と『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』の多言語化、速報展示・特別展示のキャプションの多言語化、遺跡パンフレットの多言語化を計画的に進めている。また、遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」の活用によって外国人・留学生への解説が充実した。これによって質的にも向上が見られた。

Ⅴ　教育研究支援に関する自己評価書

１．教育研究支援（その他の領域）の目的と特徴

（１）目的

熊本大学埋蔵文化財調査センター規則第２条（設置目的）に、「センターは、熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする」と定めており、本センターは埋蔵文化財を活用して、大学の教育研究に寄与することを目的とする。

（２）特徴

・発掘調査現場、実際の出土資料等を用いて授業を支援することができる。
・展示を利用して教育活動を支援できる。

【想定する関係者とその期待】

・熊本大学学生・大学院生から、歴史学分野の教育にかかわる支援が求められる。
・熊本大学教職員から、生涯学習に関する教育研究支援が求められる。

２．優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

- 埋蔵文化財調査センターの目的として教育研究支援を掲げ、その計画に基づき、展示や出土遺物・発掘現場等を用いて積極的に教育研究支援を行なっている。
- 平成 29 年度はグローバル教育カレッジの留学生教育にも協力している。
- 将来、教養教育を担当できるように教養教育の歴史学部会に助教２人が登録した。

【改善を要する点】

調査発掘業務が繁忙であり、センター規則の規定により授業を担当することはできないが、将来、調査発掘の業務量が減少した場合には、授業を担当できるようセンター規則を改正しておく必要がある。

３．観点ごとの分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　目的に照らして、教育研究支援に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点：目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点に係る状況）

埋蔵文化財調査センターの設置目的として「出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする」と明記している。また、設置目的を含む熊本大学埋蔵文化財調査センター規則は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』に掲載し、活動の目的を公表している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

埋蔵文化財調査センターの目的において、教育研究を支援する方針が定め、それを『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』で公表しているため（資料番号 C-1）。

観点　計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

・平成 28 年度は文学部の授業協力、平成 29 年度は文学部とグローバル教育カレッジの授業協力を行なった。

・出土品整理作業において、文学部歴史学科考古学履修モデルの学生を雇用し、発掘調査後の整理作業の技術指導を行なった。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

計画通り、授業協力、教育研究支援を積極的に行なっているため。

（資料番号 E-1）授業協力活動一覧

〈平成 28 年度〉

・2016 年５月 16 日・５月 30 日・６月 14 日：文学部の「考古学概説」で講義協力

・2016 年７月 15 日：文学部の杉井健准教授と授業履修生 20 名がセンター展示室を見学。

〈平成 29 年度〉

・2017 年４月 12、19、26、５月 10 日：グローバル教育カレッジの小池ウルスラ先生とチャン・チェオン・ジェン先生と学生 48 名の課外授業において展示説明とスマートフォン用アプリを用いた授業協力を実施。

・2017 年４月 27 日：文学部の木下尚子先生と約 10 名の授業協力。

・2017 年５月 16 日：文学部の木下尚子先生と 71 名の「史学概論」の授業協力。

・2017 年６月 13、19 日：グローバル教育カレッジのクリストファー・ジョンソン先生と 27 名の授業協力、展示説明を英語で実施。

・2017 年 12 月 13 日：文学部の小畑弘巳先生と約 40 名の授業協力。

観点：活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

（観点に係る状況）

文学部とグローバル教育カレッジの授業協力は、受講学生にとても好評であり、次年度以降の協力を依頼されている。

文学部歴史学科考古学専攻学生を雇用し、発掘調査後の整理作業の技術指導を行なった結果、専門技術が向上している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

授業協力の受講学生の評価が高く、指導した学生の専門技術は向上しており、計画以外にも要請に応じて教育研究支援を行なっているため。

（資料番号 E-2）

	実施日時	内容	対象者	場所
平成28年度	平成28年10月13日	リデル・ライト両女史記念館採集赤煉瓦の資料調査対応		熊本大学 埋蔵文化財調査センター
	平成28年５月26日	講演「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」		熊本市男女共同参画センター はあもにい 熊本大学 埋蔵文化財調査センター
平成29年度	2018年２月19日～３月30日	三万田東原遺跡発掘調査出土遺物の整理作業指導		熊本大学 埋蔵文化財調査センター
	2018年３月１日～28日	グアム島ハプト遺跡出土貝製品の整理作業指導		熊本大学 埋蔵文化財調査センター

（出典：各教員提出書類）

観点：改善のための取り組みが行われているか。

（観点に係る状況）

展示室での展示内容を整備し、企画ごとに学内メールで教職員に周知し、授業等での埋蔵文化財調査センターの活用を促した。

毎月１回定例開催しているセンター会議において教育研究支援活動の報告・検討を行

なっている。
（水準）期待される水準にある。
（判断理由）
　実施した教育研究活動はセンター会議で報告し、改善に取り組んでいるため（資料番号 C-5)。

４．質の向上度の分析及び判定

（１）　分析項目Ｉ　大学の目的に照らして、教育研究支援活動が適切に行われ、成果を上げていること。

（判定結果）
質を維持している

（判断理由）
文学部・グローバル教育カレッジの授業協力を積極的に行ない，技術補佐員として雇用した学生の技術指導も効果をあげており、計画以外にも要請に応じて教育研究支援を行なっている。また、遺跡散策アプリケーション「クマダイ遺跡巡り」は、考古学を専門とする学生以外の学生への授業協力の際に有効であり、質的にも向上している。

Ⅵ　男女共同参画に関する自己評価書

１．男女共同参画（その他の領域）の目的と特徴

本学が掲げる「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」を基本方針とする。

特徴は次のとおりである。

① 教育・研究及びそれを取り巻く就労環境の整備。
② 男女共同参画社会形成のための人材育成。
③ 男女共同参画社会形成のための教育・研究の充実。

【想定する関係者とその期待】

・想定する関係者
本センター教員

・その期待
男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく個性と能力を十分に発揮することができる職場環境を実現すること。

２．優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

平成 28 年度末の准教授の退職、前センター長の退任後、本センターの構成員は３人（センター長、助教２人）となり、女性の占める比率は５割から３割３分３厘となったが、発掘調査を業務とする職場、また学内のなかでは女性の比率が高い組織である。

【改善を要する点】

特にない。

３．観点ごとの分析及び判定

（１）分析項目　男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

観点　男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

（観点に係る状況）

女性が構成員の３割３分３厘を占める。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

男女共同参画を実現しているため。

（資料番号 F-1）　本センターの男女比

	女性		男性			女性数	男性数
	センター長	助教	センター長	准教授	助教		
平成 28 年度	1	1		1	1	2	2
平成 29 年度		1	1		1	1	2

（出典：熊本大学埋蔵文化財調査センター年報）

４．質の向上度の分析及び判定

（１）分析項目

（判定結果）

高い質を維持している

（判断理由）

平成 28 年度末の准教授の退職、前センター長の退任後、本センターの構成員は 3 人（センター長、助教２人）となり、女性の占める比率は５割から３割３分３厘となったが、発掘調査を業務とする職場、また学内のなかでは女性の比率が高い組織である。女性の占める比率が低下したとはいえ、性別にかかわりなく個性と能力を十分に発揮しており、質を維持していると判断できる。

Ⅶ　管理運営に関する自己評価書

１．管理運営の目的と特徴

（１）目的

本センターの管理運営は、次の業務の円滑な実現を目的とする。

① 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施。
② 出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存。
③ 発掘調査報告書ならびに年報の定期的刊行。
④ 適切な安全衛生管理の実現。
⑤ 運営委員会の適切な開催。

（２）特徴

① 運営基盤管理部施設企画ユニットと連携して学内再開発を円滑に進めると同時に埋蔵文化財の保護と活用を図る点。
② 文化財保護法に則り、熊本県ならびに熊本市の文化財担当者の指示のもとに事業を実現する点。
③ 学術的価値のある調査成果が期待されている点。

【想定する関係者とその期待】

・想定する関係者
本学に在籍する学生、勤務する職員、地域社会の一般市民

・その期待
本学で学ぶ学生の学習環境ならびに勤務する職員の職場環境の改善のための再開発等の工事に先立ち、必要と認められた場合は埋蔵文化財を発掘調査して工事を速やかに実現させること。その学術的成果を学生および職員に還元すること。

２．優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

・ 管理運営のための組織及び事務組織は、センター長と助教２人を中心に適切な規模と機能を持っている。
・ 年度ごとに埋蔵文化財調査センター運営委員会を開催し、月ごとに埋蔵文化財調査センター会議を開催することにより、構成員ほか学内関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されている。

【改善を要する点】

・ 平成 28 年度末に准教授が退職して以降、准教授が不在となっているため、相次ぐ学内の施設整備事業、とくに「熊本地震」の復興事業が本格化すると、要請される発掘調査に応じることが困難になる可能性が高い点。
・ 教員任期制が導入されているが、本センターの教員の業務内容は任期制の趣旨に適合しない点。

３．観点ごとの分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点：管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

管理運営はセンター長と助教２人が分担して担っており、事務組織は運営基盤管理部施設企画ユニット事務担当者が担当している。人事は全学共同教育研究施設等人事委員会が担当している。

危機管理については、緊急連絡網を整備し、警備システム（Q ネット）を導入している。さらに情報セキュリティ担当職員を配置している。安全管理については、化学物質取扱報告書および毒物劇物保有状況一覧表を本学環境安全センターに提出し、定期的な点検ではその都度対応している。全学の防災訓練にも参加している。現場作業の安全管理では、調査員は足場の組立て等作業主任者技能講習・地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習を受けており、現場ではヘルメットの着用を義務づけ、作業時の安全第一を心がけている。研究不正防止では全学の講習を受けてルールの周知徹底に努めている。経理の不正防止については、学内ルールに則って不正がないように努めている。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

情況に応じて生じる業務量が変動することが多い発掘調査事務においては、事務担当者に過剰な負担がかかっているが、事業量が通常の場合には、適切に機能している。危機管理体制については、緊急連絡網を整備し警備システムを導入し、情報セキュリティ担当職員を配置しており、適切に整備されていると判断される。安全管理については、学内の方針に従って対応しており、発掘調査現場においても法的な安全基準を遵守し必要な講習を受けており、整備されていると判断できる。

（資料番号 G-1）

〈平成 28 年度〉

4 月 7 日　化学物質管理説明会

5 月 25 日　Researchmap 説明会

9 月 21 日　部局システム管理責任者等研修（情報セキュリティ指導コース）

〈平成 29 年度〉

5 月 10 日　化学物質管理説明会

8 月 28 日　部局システム管理責任者等研修（情報セキュリティ指導コース）

（出典：教員からの提出資料より）

観点：構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

・毎年度、運営委員会を設置している。（資料番号 Z-1-2）

・月 1 回定期的に埋蔵文化財調査センター会議を開催している。（資料番号 Z-1-3）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

運営委員会とセンター会議を定期的に開催し、管理運営に関する意見やニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映している。運営委員会は、学内に建物をもつ各組織の代表者から構成され、代表者の組織ごとに管轄する地の埋蔵文化財に関する意見やニーズを把握できるようになっている。（文学部、教育学部、法学部、大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科、大学院自然科学研究科、大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院、大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系、運営基盤管理部施

設管理ユニット)。

近年の予算減によって報告書・年報の確実な刊行が危ぶまれることになったため、平成 29 年度には経営企画本部と問題点の確認を行ない、次年度以降の学長裁量経費の申請方法の改善を図った（詳しくは次のとおりである。従来、本センターでは報告書と年報作成のための費用（人件費、物品費、印刷費、発送費）を「管理運営費」から拠出し、不足分について「学長裁量経費」を申請し、補填していた。しかし、昨今の「管理運営費」の予算削減により、報告書作成以外の業務遂行に支障が生じるとともに、「学長裁量経費」からの補填額を大幅に増額する必要が生じ、問題となった。そこで、平成 29 年度に経営企画本部と相談し、平成 30 年度から報告書作成費用の一部を固定予算である「共通経費」で拠出し、不足分を「学長裁量経費」で補填することとした。これにより報告書作成およびその他の業務を改善することが期待できる)。

（資料番号 G-2）熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会開催記録

・平成 28 年度　第 1 回埋蔵文化財調査センター運営委員会
　日程：平成 28 年 7 月 26 日　16：20～17：20
　場所：事務局 3 階　特別会議室
・平成 29 年度　第 1 回埋蔵文化財調査センター運営委員会
　日程：平成 29 年 5 月 10 日　8：40～10：00
　場所：事務局 3 階　特別会議室

（出典：「第 1 回議事録（確定版)」より）

（資料番号 G-3）熊本大学埋蔵文化財調査センター会議開催記録

〈平成 28 年度〉

第 1 回会議　4 月 21 日　10：00～12：00
臨時会議　4 月 21 日　10：00～11：00（「熊本地震」への対応のため）
第 2 回会議　5 月 20 日　14：30～17：00
臨時会議　5 月 23 日　13：30～14：10（運営委員会決算報告準備のため）
第 3 回会議　5 月 20 日　15：00～17：15
第 4 回会議　7 月 21 日　15：00～17：00
第 5 回会議　9 月 2 日　15：00～17：15
臨時会議　9 月 29 日　15：00～16：00（教育職員採用方針および行動計画作成のため）
第 6 回会議　10 月 17 日　14：00～16：20
第 7 回会議　11 月 11 日　14：00～15：00
第 8 回会議　12 月 22 日　15：00～16：00
第 9 回会議　1 月 12 日　15：00～16：10
第 10 回会議　2 月 9 日　15：00～17：00
第 11 回会議　3 月 16 日　15：00～16：55

〈平成 29 年度〉

第 1 回会議　4 月 6 日　13：00～14：10
第 2 回会議　5 月 24 日　15：00～16：00
第 3 回会議　6 月 28 日　15：00～16：00
第 4 回会議　7 月 26 日　15：00～16：30
第 5 回会議　8 月 30 日　15：10～17：10
第 6 回会議　9 月 22 日　15：00～16：00
第 7 回会議　10 月 25 日　15：10～16：30
第 8 回会議　11 月 29 日　15：10～16：15
第 9 回会議　12 月 25 日　10：00～11：00
第 10 回会議　2 月 28 日　15：30～16：30

第 11 回会議　3 月 28 日　15：10～16：20

（出典：「センター会議議事録」より）

観点：管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

（観点に係る状況）

・学内で開催される研修（薬品管理支援システム操作説明会、部局システム管理責任者等研修・情報セキュリティ指導コース）に出席しており、センターでは毎月定例のセンター会議において管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう課題を確認し、改善策を検討している。

・平成 29 年度からは助教 2 人が文学部教授会に陪席（オブザーバー参加）し、全学的な情報・課題を把握できるようにした。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

研修等に参加し、管理運営に関わる職員の資質の向上のために取り組んでおり、助教２人が文学部教授会に陪席（オブザーバー参加）し、全学的な情報・課題を把握できるよう努めているため。

（２）分析項目Ⅱ　活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点：活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

（観点に係る状況）

埋蔵文化財調査センター運営委員会と埋蔵文化財調査センター会議で検討している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

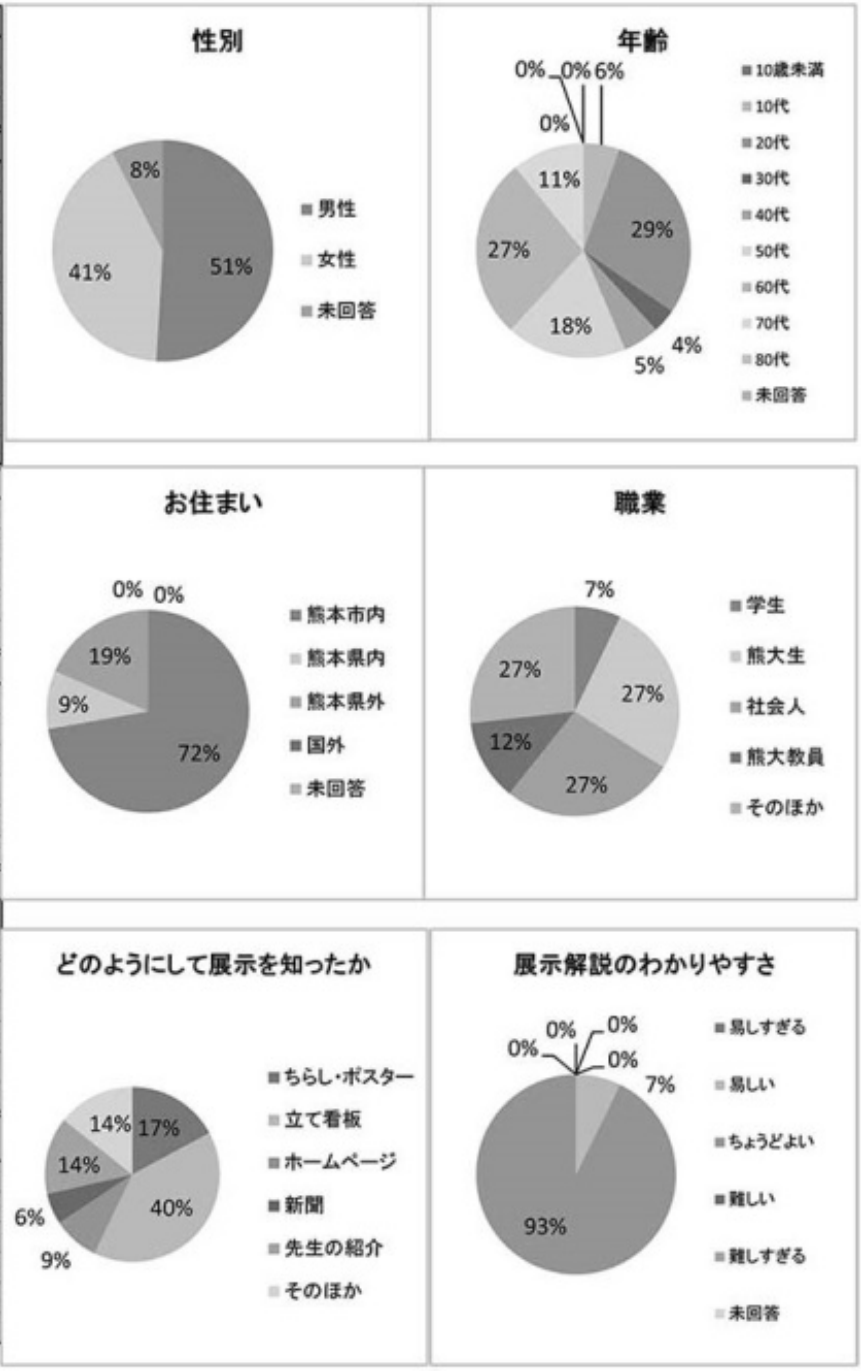
毎年度の運営委員会において、活動の総合的な状況に関する自己点検をして評価を受け、この委員会が本センターを継続的に改善するための体制として機能している。また、毎月定例のセンター会議において課題を確認し、改善策を検討しているため。

観点：活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点に係る状況）
　常設展示や企画、教育研究支援活動時にアンケート調査を実施している。
（水準）期待される水準にある。
（判断理由）
　アンケート調査結果を集計し、センター会議で検討しているため。
（資料番号 G-4）　アンケート調査結果

アンケート集計結果（54枚回収）

性別	
男性	27
女性	22
未回答	4
年齢	
10歳未満	0
10代	3
20代	16
30代	2
40代	3
50代	10
60代	15
70代	6
80代	0
未回答	0
お住まい	
熊本市内	39
熊本県内	5
熊本県外	10
国外	0
未回答	0
職業	
学生	4
熊大生	15
社会人	15
熊大教員	7
そのほか	15
未回答	0
どのようにして展示を知ったか	
ちらし・ポスター	12
立て看板	28
ホームページ	6
新聞	4
先生の紹介	10
そのほか	10
未回答	0
展示解説のわかりやすさ	
易しすぎる	0
易しい	4
ちょうどよい	51
難しい	0
難しすぎる	0
未回答	0



（気づいた点）

（出典：『速報展 2016 アンケート集計結果』）

観点：評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

（観点に係る状況）

センター会議における報告と検討により、評価結果がフィードバックされ、改善に反映されている。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

アンケート結果をセンター会議で報告し、改善を検討しているため（資料番号 G-4）。

（３）分析項目Ⅲ　教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

観点：目的（学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。）が適切に公表されるとともに、構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

大学周辺の地域史の理解促進と埋蔵文化財保護精神の普及を目的として、埋蔵文化財調査センターで常設展示（速報展示・特別展示）を実施している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

周知されており、見学者・利用者がいるため。

観点：入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

（観点に係る状況）

・該当しない。

（水準）

（判断理由）

観点：教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

（観点に係る状況）

・調査・研究活動の成果として『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』と『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』を作成し、全国 358 機関に送付しており、熊本大学附属図書館でもリポジトリを掲載している

・構内遺跡のパンフレットを作成し、一般者にむけても成果を公表している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

調査・研究活動の成果を複数の手段で広く公表しているため。

（資料番号 G-5）刊行物送付先リスト

送付先	所属部署	住所 1
札幌国際大学	人文学部現代文化学科	北海道札幌市清田区清田 4-1
南部町教育委員会社会教育課		青森県三戸郡南部町大字沖田面字沖中 46
函館市教育委員会	生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当	北海道函館市東雲町 4 番 13 号
北海道大学文学部	附属図書館管理課	北海道札幌市北区北 8 条西 5 丁目
北海道大学	埋蔵文化財調査センター	北海道札幌市北区北 11 条西 7 丁目
北海道教育庁	文化財・博物館課	北海道札幌市中央区北 3 条西 7 丁目
札幌大学	先史人類学・人類学講座	札幌市豊平区西岡 3 条 7 丁目 3-1
(財)北海道埋蔵文化財センター	普及活用課	北海道江別市西野幌 685 番地 1

	紋別郡遠軽町教育委員会	北海道紋別郡遠軽町１条通北３丁目
森町教育委員会	社会教育課　文化財保護係	北海道茅部郡森町字御幸町 132
国立国会図書館　収集書誌部	国内資料課　収集第二係	東京都千代田区永田町 1-10-1
文化庁	文化財部記念物課	東京都千代田区霞ヶ関３丁目２番２号
明治大学博物館		東京都千代田区神田駿河台 1-1 ｱｶﾃﾞﾐｰｺﾓﾝ地下１階
法政大学	文学部考古学研究室	東京都千代田区富士見 2-17-1
上智大学	文学部史学研究室	東京都千代田区紀尾井町 7-1
慶應義塾大学	文学部民族学考古学研究室	東京都港区三田 2-15-45
東京国立博物館	学芸部考古課原史室	東京都台東区上野公園 13-9
東京大学大学院人文社会系研究科	文学部考古学研究室	東京都文京区本郷 7-3-1
立正大学	文学部考古学研究室	東京都品川区大崎 4-2-16
青山学院大学	文学部史学科	東京都渋谷区渋谷 4-4-25
国学院大学	文学部考古学研究室	東京都渋谷区東４丁目 10-28
駒澤大学	考古学研究室	東京都世田谷区駒澤 1-23-1
早稲田大学	文学部考古学資料室	東京都新宿区戸山 1-24-1
首都大学東京都市教養学部	人文・社会学系考古学教室	東京都八王子市南大沢 1-1
千葉大学	文学部考古学研究室	千葉市稲毛区弥生町 1-33
	東北アジア古文化研究所	千葉県船橋市丸山 4-23-14
国立歴史民俗博物館	管理部研究協力課研究教育係	千葉県佐倉市城内町 117
筑波大学	歴史人類学専攻	茨城県つくば市天王台１丁目 1-1
	蕨市立歴史民俗資料館	埼玉県蕨市中央 5-17-22
早稲田大学	教務部本庄考古資料館	埼玉県本庄市大字栗崎字東谷 214
	明治大学黒耀石研究センター	長野県小県郡長和町大門 3670-8
（一財）長野県文化振興事業団	長野県埋蔵文化財センター	長野県長野市篠ノ井布施高田 963-4
静岡大学	人文学部考古学研究室	静岡市大谷 836
名古屋大学	文学部考古学研究室	愛知県名古屋市千種区不老町
南山大学	人類学博物館	愛知県名古屋市昭和区山里町 18
	愛知県埋蔵文化財センター	愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
公益財団法人　大阪市博物館協会	大阪文化財研究所	大阪市中央区法円坂１丁目 6-41
三重大学	人文学部考古学研究室	三重県津市栗真町屋町 1577
	松阪市文化財センター嬉野整理所	三重県松阪市嬉野下之庄町 711-1
公益財団法人滋賀県文化財保護協会		滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2
大阪大学	大学院文学研究科考古学研究室	大阪府豊中市待兼山町 1-5
大阪大学大学院文学研究科	文学部埋蔵文化財調査室	大阪府豊中市待兼山町 1-5
関西大学	文学部考古学研究室	大阪府吹田市山手町３－３－３５
国立民族学博物館	文献図書係	大阪府吹田市千里万博記念公園内 10-1
	高槻市立埋蔵文化財調査センター	大阪府高槻市南平台５丁目 21-1
	高槻市立今城塚古代歴史館	大阪府高槻市郡家新町 48 番８号
公益財団法人大阪府文化財センター	調査部調査グループ資料室	大阪府東大阪市長田東１丁目９番 16 号
東大阪市教育委員会	文化財課	大阪府東大阪市荒本北 50-4
堺市文化財調査事務所	堺市市長公室文化部文化財課分室	大阪府堺市南区稲葉１丁目 3142
	大阪府弥生文化博物館	大阪府和泉市池上町４丁目 8-27
龍谷大学	文学部考古学研究室	京都府京都市下京区七条大宮東入大工町 125-1
同志社大学	文化学科考古学研究室	京都市上京区今出川通烏丸東入
立命館大学文学部	日本史学専攻考古学研究室	京都市北区等持院北町 56-1

京都文化博物館	資料課	京都市中京区三条高倉上ル東片町 623-1
京都大学大学院文学研究科	考古学研究室	京都市左京区吉田本町
京都大学	文化財総合研究センター	京都市左京町吉田本町
公益財団法人	京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府向日市寺戸町南垣内 40-3
向日市埋蔵文化財センター		京都府向日市鶏冠井町上古 23
公益財団法人　元興寺文化財研究所総合文化財センター		奈良市南肘塚町 146-1
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	埋蔵文化財センター	奈良市佐紀町 247-1
帝塚山大学	考古学研究所	奈良市帝塚山 7 丁目 1-1
奈良大学文学部	文化財学科	奈良市山陵町 1500
埋蔵文化財天理教調査団		奈良県天理市永原町 128-1
天理大学文学部	歴史文化学科考古学･民俗学研究室	奈良県天理市杣之内町 1050
	奈良県立橿原考古学研究所	奈良県橿原市畝傍町 1
公益財団法人	和歌山県文化財センター	和歌山市岩橋 1263-1
和歌山県教育庁	生涯学習局文化遺産課	和歌山市小松原通 1-1
海南市教育委員会	生涯学習課	和歌山県海南市下津町丸田 217-1
	神戸市埋蔵文化財センター	兵庫県神戸市西区糀台 6 丁目　西神中央公園内
芦屋市教育委員会	生涯学習課文化財担当	兵庫県芦屋市精道町 7-6
伊丹市教育委員会	生涯学習部社会教育課	兵庫県伊丹市千僧 1 丁目 1 番地
兵庫県立考古博物館		兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1
	鳥取県埋蔵文化財センター	鳥取県鳥取市国府町宮下 1260
鳥取大学	地域学部考古学研究室	鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101
鳥取県教育委員会事務局	妻木晩田遺跡現地事務所	鳥取県西伯郡大山町妻木 1115-4
島根県立八雲立つ風土記の丘	資料館	島根県松江市大庭町 456
	島根県埋蔵文化財調査センター	島根県松江市打出町 33
公益財団法人松江市スポーツ振興財団	埋蔵文化財課	島根県松江市島根町加賀 1263-1
	島根大学ミュージアム	島根県松江市西川津町 1060
島根大学	法文学部考古学研究室	島根県松江市西川津町 1060
安来市教育委員会	教育総務課	島根県安来市伯太町東母里 580
江津市教育委員会	社会教育課　文化振興係	島根県江津市江津町 1525
岡山大学	文学部考古学研究室	岡山市北区津島中 3-1-1
岡山大学	埋蔵文化財調査研究センター	岡山市北区津島中 3 丁目 1-1
	岡山県古代吉備文化財センター	岡山市西花尻 1325-3
	岡山県立博物館	岡山市後楽園 1-5
津山市教育委員会	生涯学習部文化課文化財保護係	岡山県津山市沼 600-1
	財団法人倉敷考古館	岡山県倉敷市中央 1 丁目 3-13
矢掛町教育委員会	教育課	岡山県小田郡矢掛町 2677-1
	広島県立歴史博物館	広島県福山市西町 2-4-1
府中市教育委員会	総務課文化財係	広島県府中市元町 1-5
広島県立歴史民俗資料館	みよし風土記の丘	広島県三次市小田幸町 122
公益財団法人広島市文化財団	文化科学部　文化財課	広島県広島市東区光町二丁目 15 番 36 号
公益財団法人広島県教育事業団事務局	埋蔵文化財調査室	広島市西区観音新町 4 丁目 8-49
広島大学総合博物館	埋蔵文化財調査部門	東広島市鏡山 1 丁目 1-1 特高受変電所内
広島大学	文学部考古学研究室	広島県東広島市鏡山 1-2-3
梅光学院大学	地域文化研究所	山口県下関市向洋町 1-1-1

	下関市立考古博物館	山口県下関市大字綾羅木字岡 454 番地
下関市立大学学会		山口県下関市大学町 2-1-1
	山口県埋蔵文化財センター	山口市春日町 3-22
山口大学	人文学部考古学研究室	山口市吉田 1677-1
山口大学	埋蔵文化財資料館	山口市吉田 1677-1
	山口県立美術館	山口県萩市平安古 586-1
土井ケ浜遺跡	人類学ミュージアム	山口県下関市豊北町神田上 891-8
	下関市烏山民俗資料館	山口県下関市豊浦町大字川棚 5180
	高松市埋蔵文化財センター	高松市番町一丁目 5 番 1 号
香川県埋蔵文化財センター	資料普及課普及啓発担当	香川県坂出市府中町字南谷 5001 番地 4
	徳島県立博物館	徳島市八万町向寺山
徳島大学	総合科学学部考古学研究室	徳島市南常三島町 1-1
徳島大学医学部内	徳島大学埋蔵文化財調査室	徳島市蔵本町 2-50-1
徳島県教育委員会	文化財課	徳島市万代町 1-1
	海陽町立博物館	徳島県海部郡海陽町四方原字杉谷 73
(財)高知県文化財団	埋蔵文化財センター	高知県南国市篠原南泉 1437-1
愛媛大学	埋蔵文化財調査室	愛媛県松山市道後樋又 10-13
愛媛大学	法文学部考古学研究室	愛媛県松山市文京町 3 番
	公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター	愛媛県松山市衣山 4 丁目 68 番地 1
(財)松山市文化・スポーツ振興財団	埋蔵文化財センター	愛媛県松山市南斎院町乙 67-6
西予市教育委員会	文化体育振興課文化振興係	愛媛県西予市宇和町卯之町 3 丁目 439 番地 1
苅田町教育委員会	生涯学習課まちの歴史担当	福岡県京都郡苅田町富久町 1 丁目 19-1
(財)北九州市芸術文化振興財団	埋蔵文化財調査室	福岡県北九州市小倉北区金田 1-1-3
	北九州市立自然史･歴史博物館	福岡県北九州市八幡東区東田 2 丁目 4-1
水巻町図書館・歴史資料館		福岡県遠賀郡水巻町古賀 3 丁目 18 番 1 号
芦屋歴史の里	歴史民俗資料館	福岡県遠賀郡芦屋町大字山鹿 1200 番地
鞍手町教育委員会	社会教育課社会教育係（文化財）	福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧 2105 番地
中間市教育委員会	生涯学習課	福岡県中間市中間 1 丁目 1-1
新宮町教育委員会	社会教育課文化・図書館担当	福岡県糟屋郡新宮町大字下府 425-1
那珂川町教育委員会	教育部・社会教育課	福岡県筑紫郡那珂川町後野 1 丁目 5 番 1 号（中央公民館内）
	宇美町立歴史民俗資料館	福岡県糟屋郡宇美町宇美 1 丁目 1 番 22 号
須恵町教育委員会	社会教育課	福岡県糟屋郡須恵町大字上須恵 1180-1
志免町教育委員会	生涯学習課	福岡県糟屋郡志免町志免中央 1 丁目 2 番 1 号
	粕屋町立歴史資料館	福岡県糟屋郡粕屋町若宮 1 丁目 1 番 1 号
篠栗町教育委員会	社会教育課文化財係	福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲 47-1
久山町教育委員会	教育課文化財保護係	福岡県糟屋郡久山町大字久原 3632
古賀市教育委員会	文化課　文化財係	福岡県古賀市中央 2 丁目 13-1
福津市教育委員会	教育総務課	福岡県福津市津屋崎 458-1
宗像市郷土文化課		福岡県宗像市深田 588 番地　海の道むなかた館
岡垣町教育委員会	社会教育課社会教育係	福岡県遠賀郡岡垣町野間 1 丁目 1 番 1 号
遠賀町教育委員会	—	福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀 513
長崎県埋蔵文化財センター		長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515-1
壱岐市教育委員会	文化財課	長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515-1

福岡市埋蔵文化財センター		福岡市博多区井相田 2-1-94
	九州大学附属図書館雑誌情報係	福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院	人文科学研究院考古学研究室	福岡市東区箱崎 6-19-1
九州大学	埋蔵文化財調査室	福岡市東区箱崎 6-10-1
福岡市博物館	学芸課	福岡市早良区百道浜 3-1-1
福岡大学	人文学部歴史学科考古学研究室	福岡市城南区七隈 8-19-1
西南学院大学	文学部考古学・高倉研究室	福岡市早良区西新 5-2-92
春日市教育委員会	文化財課	福岡県春日市岡本 3 丁目 57 番地「春日市奴国の丘歴史資料館」
大野城市教育委員会	ふるさと文化財課文化財担当	福岡県大野城市曙町 2-2-1
対馬市教育委員会	文化財課	長崎県対馬市美津島町雞知甲 1287 番地 1
筑紫野市教育委員会	文化情報発信課　文化財担当	福岡県筑紫野市二日市南 1-9-1（筑紫野市歴史博物館内）
	九州国立博物館	福岡県大宰府市石坂 4-7-2
太宰府市文化ふれあい館		福岡県太宰府市国分四丁目 9 － 1
太宰府市教育委員会	教育部文化財課	福岡県太宰府市観世音寺 1-1-1
九州大学	アジア埋蔵文化財研究センター	福岡県福岡市西区元岡 744
糸島市教育委員会	文化課	福岡県糸島市志摩初 30 番地
	糸島市立伊都国歴史博物館	福岡県糸島市大字井原 916
飯塚市歴史資料館		福岡県飯塚市柏の森 959-1
嘉麻市教育委員会	文化財係	福岡県嘉麻市大隈町 733
王塚装飾古墳館		福岡県嘉穂郡桂川町寿命 376
飯塚市教育委員会	生涯学習部文化財課	福岡県飯塚市新立岩 5 番 5 号
直方市教育委員会	生涯学習課	福岡県直方市殿町 7-1
福智町教育委員会	生涯学習課	福岡県田川郡福智町金田 937 番地 2
糸田町教育委員会	社会教育課文化財係	福岡県田川郡糸田町 2023-1
香春町教育委員会	生涯学習課	福岡県田川郡香春町大字高野 987-1
宮若市教育委員会	社会教育課	福岡県宮若市宮田 6 番地 1
みやこ町歴史民俗博物館	生涯学習課文化係	福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
赤村教育委員会	教務課社会教育係	福岡県田川郡赤村大字内田 1188
大任町教育委員会	社会教育課文化財係	福岡県田川郡大任町大字大行事 3067
添田町役場	まちづくり課　文化財係	福岡県田川郡添田町大字添田 2151
行橋市教育委員会	文化課文化財保護係	福岡県行橋市中央 1 丁目 1-1
田川市教育委員会	文化生涯学習課文化係	福岡県田川市大字伊田 2734 番地の 1(石炭記念公園内)
川崎町教育委員会	社会教育課	福岡県田川郡川崎町大字田原 786-2 川崎町コミュニティセンター内
豊前市立埋蔵文化財センター		福岡県豊前市大字八屋 1776-2
築上町教育委員会	生涯学習課文化財保護係	福岡県築上郡築上町船迫 1342-22 船迫窯跡公園
	久留米市埋蔵文化財センター	福岡県久留米市諏訪野 1830-6
大刀洗町教育委員会	生涯学習課文化財係	福岡県三井郡大刀洗町大字冨多 819
大川市教育委員会	生涯学習課文化係	福岡県大川市大字酒見 256-1
柳川市教育委員会	生涯学習課文化係	福岡県柳川市三橋町正行 431
筑後市教育委員会	社会教育課	福岡県筑後市大字山ノ井 898
広川町教育委員会	生涯学習課社会教育係	福岡県八女郡広川町大字新代 1804-1
八女市役所	文化振興課文化財保護係	福岡県八女市本町 647

みやま市教育委員会	社会教育課　市史編さん係	福岡県みやま市山川町立山１２７８番地
大牟田市企画総務部	世界遺産・文化財室	福岡県大牟田市有明町２丁目３番地
	甘木歴史資料館	福岡県朝倉市甘木 216-2
朝倉市教育委員会	文化・生涯学習課文化財係	福岡県朝倉市甘木 198-1
九州歴史資料館	調査課	福岡県小郡市三沢 5208-3
小郡市教育委員会文化財課	小郡市埋蔵文化財センター	福岡県小郡市三沢 5147-3
筑前町教育委員会	教育課文化財係	福岡県朝倉郡筑前町篠隈 246 番地
東峰村教育委員会	文化財担当	福岡県朝倉郡東峰村小石原 941-9
うきは市教育委員会	生涯学習課文化財保護係	福岡県うきは市吉井町 983-1
	佐賀市文化財資料館	佐賀県佐賀市本庄町大字本庄 1121
	佐賀県立博物館	佐賀市城内 1-15-23
佐賀県教育庁	文化財課	佐賀市城内 1-1-59
基山町教育委員会	生涯学習課生涯学習文化係	佐賀県三養基郡基山町大字宮浦 666 番地
鳥栖市教育委員会	生涯学習課	佐賀県鳥栖市宿町 1118
吉野ヶ里町教育委員会	社会教育課文化財係	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田 307（中央公民館）
神埼市教育委員会	社会教育課文化財係	佐賀県神埼市千代田町直鳥 166 番地 1
	佐賀県立九州陶磁文化館	佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1
小城市歴史資料館		佐賀県小城市小城町 158-4
多久市教育委員会	生涯学習課文化スポーツ係	佐賀県多久市北多久町大字小侍 7-1
唐津市教育委員会	生涯学習文化財課	佐賀県唐津市南城内 1-1 大手口センタービル 6 階
	佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県唐津市鎮西町大字名護屋 1931-3
	末廬館	佐賀県唐津市菜畑 3359-2
伊万里市教育委員会	生涯学習課文化財係	佐賀県伊万里市立花町 1355-1
江北町教育委員会	生涯学習係	佐賀県杵島郡江北町大字山口 1651-1
鹿島市教育委員会	生涯学習課社会教育・文化係	佐賀県鹿島市大字納富分 2643-1
長崎市教育委員会	文化観光部文化財課	長崎市魚の町 5-1
五島市教育委員会	生涯学習課	長崎県五島市福江町 1 番 1 号
諫早市教育委員会	文化課	長崎県諫早市東小路町 7 番 1 号
雲仙市教育委員会	生涯学習課	長崎県雲仙市千々石町戊 582 番地
大村市教育委員会	文化振興課	長崎県大村市玖島 1-25
新上五島町役場教育委員会	文化財課	長崎県南松浦郡新上五島町有川郷 578 番地 36
	小値賀町教育委員会	長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷 2371
佐世保市教育委員会	社会教育課文化財係	長崎県佐世保市八幡町 1-10
島原市教育委員会	社会教育課	長崎県島原市有明町大三東戊 1327 番地
対馬市教育委員会	文化財課	長崎県対馬市美津島町雞知甲 1287 番地 1
南島原市教育委員会	文化課	長崎県南島原市有馬町乙 1023
松浦市教育委員会	文化財課	長崎県松浦市志佐町里免 365 番地
平戸市教育委員会	文化交流課	長崎県平戸市岩ノ上町 1508 番地
	熊本市立熊本博物館	熊本市中央区古京町 3-2
九州ルーテル学院大学	人文学部人文学科	熊本市中央区黒髪 3 丁目 12-16
熊本大学文学部	考古学研究室	熊本県熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号
熊本市文化振興課	埋蔵文化財調査室	熊本市中央区手取本町 1-1
山鹿市出土文化財管理ｾﾝﾀｰ	山鹿市教育委員会文化課文化財係	熊本県山鹿市方保田 128
	歴史公園鞠智城温故創生館	熊本県山鹿市菊鹿町大字米原 443-1

	熊本県立装飾古墳館	熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085
南関町教育委員会	教育課文化財係	熊本県玉名郡南関町大字関町 1324
合志市教育委員会	生涯学習課　生涯学習班	熊本県合志市福原 2922
益城町教育委員会	生涯学習課	熊本県上益城郡益城町大字木山 236
菊池市教育委員会	生涯学習課	熊本県菊池市隈府 888
	西原村教育委員会	熊本県阿蘇郡西原村小森 3259
嘉島町教育委員会	社会教育課	熊本県上益城郡嘉島町上島 545　嘉島町民会館内
山都町教育委員会	社会教育係	熊本県阿蘇郡山都町今 500
	熊本県文化財資料室	熊本県熊本市南区城南町大字沈目 1667
	城南町歴史民俗資料館	熊本県熊本市南区城南町大字塚原 1924 番地
美里町教育委員会	教育課社会教育係	熊本県下益城郡美里町大字馬場 1100
甲佐町教育委員会	社会教育課社会教育係	熊本県上益城郡甲佐町大字豊内 613
上天草市役所　松島庁舎	文化振興係	熊本県上天草市松島町合津 3294
天草市教育委員会	文化財課文化財保護係	熊本県天草市本渡町本戸馬場 3080-1
荒尾市教育委員会	社会教育課文化係	熊本県荒尾市宮内出目 390
	玉名市立歴史博物館こころピア	熊本県玉名市岩崎 117
和水町教育委員会	社会教育課文化係	熊本県玉名郡和水町板楠 76
八代市市民協働部	文化まちづくり課	熊本県八代市松江城町 1-25
相良村教育委員会	社会教育係	熊本県球磨郡相良村大字深水 2500-1
五木村教育委員会	社会教育係	熊本県球磨郡五木村甲 2672-7
あさぎり町教育委員会	生涯学習課文化振興係	熊本県球磨郡あさぎり町免田東 1989 番地 3
山江村教育委員会	社会教育係	熊本県球磨郡山江村大字山田甲 1360 番地
人吉市教育委員会	歴史文化課	熊本県人吉市下城本町 1578-1
玉東町教育委員会	社会教育課	熊本県玉名郡玉東町白木 1-1
宇土市教育委員会	文化課	熊本県宇土市新小路町 95 番地
宇城市教育委員会	教育部文化課	熊本県宇城市松橋町大野 85 番地
菊陽町教育委員会	生涯学習課	熊本県菊池郡菊陽町大字久保田 2598
	大津町歴史文化伝承館	熊本県菊池郡大津町大津 1109
南阿蘇村教育委員会	社会教育課文化財係	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字吉田 1495
阿蘇市教育委員会	教育課社会教育係	熊本県阿蘇市一の宮町宮地 504-1
氷川町教育委員会	生涯学習課	熊本県八代郡氷川町島地 642
芦北町教育委員会	生涯学習課	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町 653
	大分県立埋蔵文化財センター	大分市牧緑町 1-61
大分市教育委員会	教育総務部文化財課	大分市大字田原 337-5
中津市歴史民俗資料館		大分県中津市殿町 1385 番地
上毛町役場	総合窓口課文化財保護係	福岡県築上郡上毛町大字東下 1512 番地
	大分県立歴史博物館	大分県宇佐市大字高森字京塚
豊後高田市教育委員会	社会教育課	大分県豊後高田市中真玉 2144 番地の 12
国東市教育委員会文化財課	国東市歴史体験学習館	大分県国東市国東町安国寺 1639-2
別府大学	附属博物館	大分県別府市北石垣 82
別府市教育委員会	生涯学習課	大分県別府市上野口 1-15
臼杵市教育委員会	文化・文化財課　文化財研究室	大分県臼杵市大字吉小野 4296 番地
佐伯市教育委員会	社会教育課	大分県佐伯市中村東町 6-9
日田市教育庁	文化財保護課	大分県日田市田島 2 丁目 6-1
竹田市文化財管理センター		大分県竹田市大字下坂田 830

宇佐市教育委員会	社会教育課文化財係	大分県宇佐市大字上田 1030－1
杵築市教育委員会	生涯学習課文化振興・文化財係	大分県杵築市山香町大字野原 1010-2
日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館		大分県速見郡日出町 2602 番地 2
	豊後大野市歴史民俗資料館	大分県豊後大野市緒方町大字下自在 172
	宮崎県総合博物館	宮崎県神宮 2 丁目 4 番 4 号
	みやざき歴史文化館	宮崎市大字芳士 2258 番地 3
	宮崎県埋蔵文化財センター	宮崎市佐土原町下那珂 4019
宮崎市教育委員会	文化財課	宮崎市大字跡江 4200 番地 3（生目の杜遊古館内）
国富町教育委員会	社会教育課	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄 4800
	宮崎県立西都原考古博物館	宮崎県西都市大字三宅字西都原西 5670 番
西都市教育委員会	社会教育課文化財係	宮崎県西都市大字妻 1241 番地 1　西都市歴史民俗資料館
延岡市教育委員会	文化課	宮崎県延岡市南町 2 丁目 1-8
日向市役所	社会教育課文化係	宮崎県日向市本町 10 番 5 号
木城町役場	教育課社会教育係	宮崎県児湯郡木城町大字高城 1227-1
都城市教育委員会	文化財課	宮崎県都城市菖蒲原町 19-1
小林市教育委員会	社会教育課	宮崎県小林市大字細野 300
日南市教育委員会	生涯学習課	宮崎県日南市中央通 1-1-1
串間市教育委員会	文化係	宮崎県串間市大字西方 6524 番地 58
川南町教育委員会	教育課　文化スポーツ係	宮崎県児湯郡川南町大字平田 2386-3
新富町教育委員会	生涯学習課（新富町総合交流センター内）	宮崎県児湯郡新富町大字上富田 6345-5
伊東記念館	（日南市教育委員会社会教育課）	宮崎県日南市飫肥 9 丁目 1-1
えびの市教育委員会	社会教育課	宮崎県えびの市大字大明司 2146-2
	高原町教育委員会	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓 392
鹿児島大学	埋蔵文化財調査センター	鹿児島市郡元 1-21-24
鹿児島大学	法文学部考古学研究室	鹿児島市郡元 1 丁目 21-30
鹿児島国際大学	国際文化学部博物館実習施設	鹿児島市坂之上 8-34-1
指宿市考古博物館	時遊館 COCCO はしむれ	鹿児島県指宿市十二町 2290 番地
垂水市教育委員会	社会教育課	鹿児島県垂水市旭町 61
西之表市教育委員会	社会教育課文化係	鹿児島県西之表市西之表 7585　種子島開発総合ｾﾝﾀｰ（鉄砲館）
屋久島町教育委員会	社会教育課	鹿児島県熊毛郡屋久島町安房 187 番地 1
天城町教育委員会	社会教育課文化財係	鹿児島県大島郡天城町平土野 2691-1
	伊仙町立歴史民俗資料館	鹿児島県大島郡伊仙町伊仙 2945-3
鹿児島市教育委員会	管理部　文化財課	鹿児島市山下町 6-1
	肝付町立歴史民俗資料館	鹿児島県肝属郡肝付町野崎 1936 番地
鹿屋市教育委員会	文化課センター	鹿児島県鹿屋市串良町岡崎 2059
錦江町教育委員会		鹿児島県肝属郡錦江町城元 918 番地
奄美市歴史民俗資料館		鹿児島県奄美市笠利町須野 670
奄美市教育委員会	文化スポーツ振興課	鹿児島県奄美市名瀬幸町 25-8
大口市教育委員会	生涯学習課	鹿児島県伊佐市大口 2845-2
薩摩川内市教育委員会	教育部文化課文化財グループ	鹿児島県薩摩川内市神田町 3-22
南九州市教育委員会	文化財課（ミュージアム知覧内）	鹿児島県南九州市知覧町郡 17880
枕崎市教育委員会	文化課文化係	鹿児島県枕崎市山手町 175 番地
出水市教育委員会	文化財課文化財係	鹿児島県出水市緑町 1-3

阿久根市教育委員会	生涯学習課文化係	鹿児島県阿久根市波留 5800-1
いちき串木野市教育委員会	社会教育課	鹿児島県いちき串木野市湊町 1 丁目 1 番地
日置市教育委員会	社会教育課	鹿児島県日置市伊集院町郡 1 丁目 100 番地
南さつま市埋蔵文化財センター	（歴史交流館金峰内）	鹿児島県南さつま市金峰町池辺 1535
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号
霧島市教育委員会	社会教育課文化財グループ	鹿児島県霧島市国分中央 3 丁目 45-1
志布志市教育委員会	生涯学習課　文化財管理室　埋蔵文化財係	鹿児島県志布志市志布志町志布志 2-1-1
	曽於市埋蔵文化財センター	鹿児島県曽於市大隅町月野 1946-1
さつま町教育委員会	社会教育課 文化係	鹿児島県薩摩郡さつま町船木 302
沖縄県立博物館・美術館	博物館班	沖縄県那覇市おもろまち 3 丁目 1 番 1 号
沖縄県教育庁	文化課記念物係	沖縄県那覇市泉崎 1-2-2
那覇市市民文化部	文化財課	沖縄県那覇市泉崎 1-1-1
沖縄国際大学	総合文化学部考古学研究室	沖縄県宜野湾市宇宜野湾 2-6-1
豊見城市教育委員会	生涯学習部文化課	沖縄県豊見城市字伊良波 392
糸満市教育委員会	文化課文化財担当	沖縄県糸満市潮崎町 1 丁目 1 番地
南城市教育委員会	文化課文化財係	沖縄県南城市大里字仲間 807 番地
宜野湾市教育委員会	教育部文化課文化財保護係	沖縄県宜野湾市野嵩 1 丁目 1-2
浦添市教育委員会	文化部文化課文化係	沖縄県浦添市安波茶 1 丁目 1 番 1 号
沖縄県立埋蔵文化財センター	調査班	沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7
琉球大学	法文学部考古学研究室	沖縄市中頭郡西原町字千原 1 番地
沖縄市教育委員会	沖縄市立郷土博物館　文化財係	沖縄県沖縄市上池 2-19-6 沖縄市文化センター3 階
北谷町教育委員会	社会教育課文化係	沖縄県中頭郡北谷町字桑江 226
恩納村	文化財係	沖縄県国頭郡恩納村字仲泊 1656-8
	宜野座村立博物館	沖縄県宜野座村字宜野座 232
うるま市教育委員会	文化課	沖縄県うるま市みどり町 1-1-1
名護市教育委員会	文化課	沖縄県名護市東江 1 丁目 8 番 11 号　名護博物館 2 階
宮古島市教育委員会	生涯学習振興課文化財係	沖縄県宮古島市城辺字福里 600-1
	石垣市立八重山博物館	沖縄県石垣市登野城 4-1
石垣市教育委員会	文化課文化財係	沖縄県石垣市美崎町 16-6
美浜町歴史文化館		福井県三方郡美浜町河原市 8-8
金沢大学	文学部考古学研究室	金沢市角間町
富山大学附属図書館	情報管理課雑誌情報係	富山市五福 3190
新潟大学	附属図書館	新潟市五十嵐二の町 8050
福島大学	附属図書館	福島市金谷川 1 番地
東北大学大学院	文学研究科考古学研究室	宮城県仙台市青葉区川内 27 番 1 号
熊本日日新聞社		熊本市中央区世安町 172

（出典：『発送先一覧』データ）

（４）分析項目Ⅵ　教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。（施設・設備）

観点：教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

・埋蔵文化財調査センター建物の面積は 297 ㎡。通常の収容人数は通常 12 名。その他展示室利用などで来館者がある。

・施設設備については、展示室の利用状況は毎年度増加している。１階展示室は 28 ㎡、このうち展示遺物陳列空間は 16 ㎡、であり、見学者の見学スペースが 12 ㎡と狭いという施設上の問題がある。

・埋蔵文化財を保管しているので、機械警備と監視カメラを導入している。

・「熊本地震」の経験から、黒髪北地区収蔵庫の遺物の落下防止策を施す必要があるが、費用が高額となるため実現は見ていない（施設改善の要求は出している）。一部センター予算（科学研究費間接経費）より捻出している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

施設上の制約がありながらも、利用者・見学者が増加しているため。

（資料番号 G-6）　展示室の展示状況

（出典：熊本大学埋蔵文化財調査センター展示室）

観点：教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

・学内 LAN につながったパソコンを 10 台保有し、調査・研究に活用している。

・学内 LAN につながったすべてのパソコンにはセキュリティ（F－Secure Client Security）を導入して管理している。

・情報セキュリティ管理としては、情報システム運用委員会を組織し、情報セキュリティ管理責任者・システム　管理責任者を選出し、管理体制を構築している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

研究者数に応じた学内 LAN に接続したパソコンを整備し、情報セキュリティ管理体制も整備しているため。

観点：図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

・調査・研究に必要な図書を購入し、図書・雑誌・報告者などに分類し、利用可能な状態で棚に配架している。

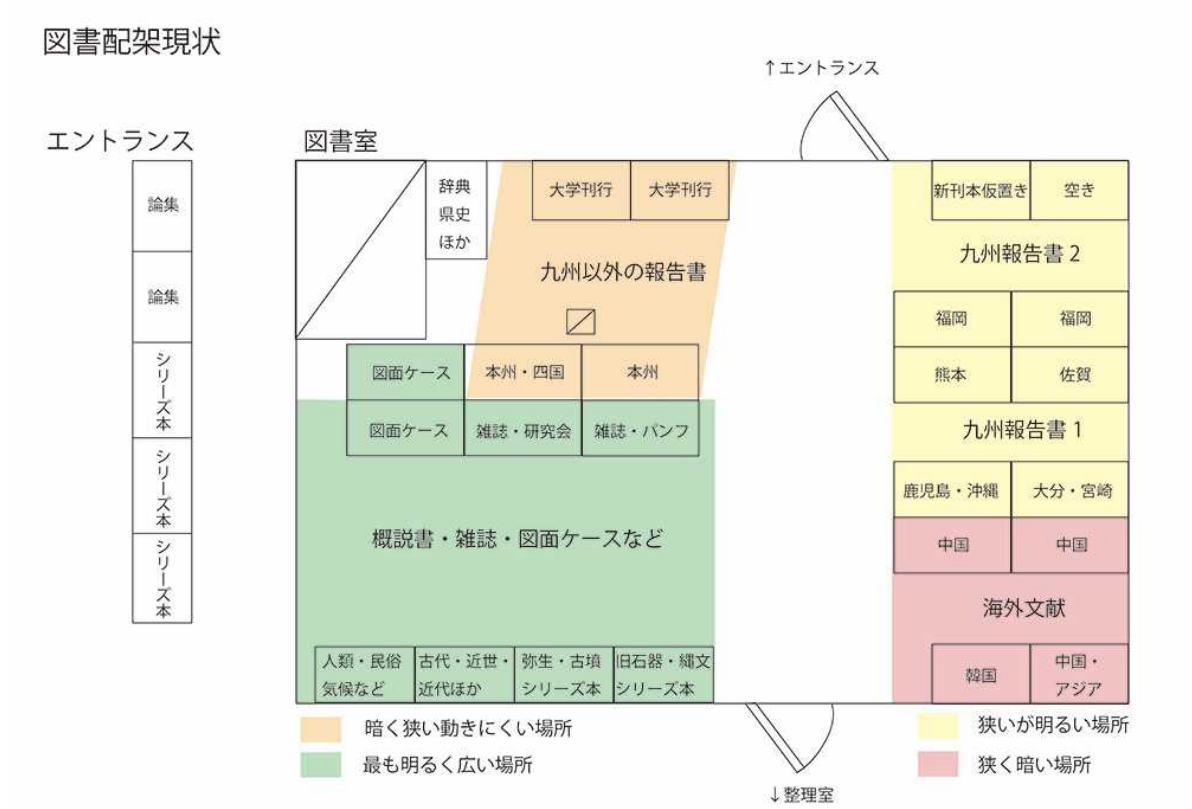
・文学部歴史学科考古学履修モデルを中心とした学生・大学院生が学位論文作成のために図書を利用している。また教員・研究者も利用している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

図書が利用可能な状況に配架されており、学生・大学院生、さらに教員・研究者が利用しているため。

（資料番号 G-7）　図書配架状況



（出典：『2016 年 3 月図書配架状況』データ）

観点：自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）
　埋蔵文化財調査センター常設展示室で展示している。
（水準）期待される水準にある。
（判断理由）
　展示室を常時開放しており、利用者・見学者がいるため。

４．質の向上度の分析及び判定

（１）分析項目Ⅰ　管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。
（判定結果）
大きく改善向上している

（判断理由）
平成 28 年度末の准教授退職後、管理運営はセンター長と助教２人が担っており、事務組織は運営基盤管理部施設企画ユニット事務担当者が担当している。
本センターには適さない教員任期制が導入されていたが、平成 29 年度に教員任期制を廃止し、業務・運営体制を整えることができた。また、助教の准教授昇任が喫緊の課題であったが、次年度４月の昇任を実現することができた。さらに、平成 29 年度の業務繁忙期には鹿児島大学埋蔵文化調査センターの助教の支援を得た。
これらが実現できたのは、埋蔵文化財調査センター運営委員会と埋蔵文化財調査センター会議において密に自己点検と課題の検討を行なうとともに、運営基盤管理部施設企画ユニットの適切な支援があったからである。以上から管理運営体制が改善に向かい、事務組織も適切に機能していると判断できる。

（２）分析項目Ⅱ　活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。
（判定結果）
高い質を維持している

（判断理由）
年度ごとに埋蔵文化財調査センター運営委員会を開催し､本センターの業務･活動内容、ならびに課題を適切に把握しており、月ごとに埋蔵文化財調査センター会議を開催することにより、センター構成員のほか、学内関係者の意見やニーズの把握、センター業務の課題の把握に努めている。これらによって改善するための体制が整備・機能していると判断できる。

（３）分析項目Ⅲ　教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

（判定結果）
高い質を維持している

（判断理由）
発掘調査ならびに研究・教育支援活動等の情報は､『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』と『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』、さらに構内遺跡パンフレットで公表しているため、十分に説明責任を果たしていると判断できる。

（４）分析項目Ⅳ　教育研究組織泳ぎ教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。（施設・設備）

（判定結果）

高い質を維持している

（判断理由）

パソコンが適切に配置され、発掘調査・研究にかかわる図書が教員・研究者ならびに学生･大学院生に利用可能な環境に整備されているため､有効活用されていると判断できる。